

CASBEE[®]さいたま2016年版 | 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ガーラ・レジデンス武蔵浦和	階数	地上6F
建設地	さいたま市南区内谷四丁目130番1, 130番5	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、法第22条区域	平均居住人員	216人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年9月20日
敷地面積	1,791㎡	作成者	株式会社多田建築研究所
建築面積	988㎡	確認日	2023年9月20日
延床面積	3,775㎡	確認者	株式会社多田建築研究所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100%

② 建築物の取組み: 79%

③ 上記+②以外のオンサイト手法: 79%

④ 上記+: 79%

46 (kg-CO₂/年・㎡)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合 建物のデザインと色調を落ち着いたものとし、街並みとの調和に配慮している。		LED照明を採用 住戸サッシのガラスは複層ガラスを採用
Q1 室内環境 開口部の遮音性能T-2を使用。 F☆☆☆☆の内装材を全面に使用している。	Q2 サービス性能 Gbitのブロードバンドが利用できる環境を整備する。	Q3 室外環境(敷地内) 限られた敷地内に可能な限り緑地を整備し、敷地内の温熱環境に配慮する。
LR1 エネルギー 日本住宅性能表示「5-1断熱等性能等級4」相当の性能を確保している。	LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上材が安易に分別可能としている。 節水型便器の採用	LR3 敷地外環境 駐輪台数は計画戸数の200%を整備し、路上駐輪対策をとっている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEEさいたま2016年版
ガーラレジデンス武蔵浦和

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEEさいたま2016年版
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									3.2
Q1 室内環境			0.40		-				3.6
1 音環境		2.0	0.15	3.3	1.00				3.2
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50				
1.2 遮音		1.0	0.50	3.6	0.50				
1 開口部遮音性能	T-2	1.0	1.00	5.0	0.30				
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20				
1.3 吸音		-	-	-	-				
2 温熱環境		1.4	0.35	4.0	1.00				3.8
2.1 室温制御		1.3	0.50	4.0	1.00				
1 室温		1.0	0.63	-	-				
2 外皮性能	日本住宅性能表示 5-1断熱等性能等級 等級4	2.0	0.38	4.0	1.00				
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-				
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		2.0	0.30	-	-				
3 光・視環境		2.0	0.25	4.0	1.00				3.8
3.1 昼光利用		1.8	0.30	4.0	0.50				
1 昼光率	昼光率4.7% G1タイプLDで計算	1.0	0.60	5.0	0.50				
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20				
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.50				
1 昼光制御	カーテン+庇	2.0	1.00	4.0	1.00				
3.3 照度		1.0	0.15	-	-				
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-				
4 空気質環境		3.6	0.25	3.6	1.00				3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63				
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面的に使用	4.0	1.00	4.0	1.00				
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38				
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33				
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33				
4.3 運用管理		-	-	-	-				
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-				
2 喫煙の制御		-	-	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-				3.2
1 機能性		3.0	0.40	3.8	1.00				3.7
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60				
1 広さ・収納性		-	-	-	-				
2 高度情報通信設備対応	Gbitクラスのブロードバンドが利用可能	-	-	5.0	1.00				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	2.0	0.40				
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-				
3 内装計画		3.0	1.00	1.0	0.50				
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-				2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	日本住宅性能表示 劣化対策等級3	5.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		2.4	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		1.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			3.0	0.30	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			-	-	2.6	0.50	
1 階高のゆとり			-	-	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		中・高木を適切に配置し、日陰の形成に努めた	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		日本住宅性能表示 5-1断熱等性能等級4	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.85	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。界壁部、外部廻り壁は躯体+軽鉄+仕上材(外部廻り断熱はウレタン吹付)	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ノンフロンタイプの断熱材を使用	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率79%	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		照明は適切な場所に適切に配置されている。広告物照明を行っていない。	5.0	0.70	-	-	

	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	
--	---	------------------------	-----	------	---	---	--